PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

62-277323

(43) Date of publication of application: 02.12.1987

(51)Int.CI.

A61K 31/445 A61K 9/08

(21)Application number: 61-187991

7,011. 07.00

(22)Date of filing:

11.08.1986

(71)Applicant:

SANKYO CO LTD

(72)Inventor:

KURASAWA TOKIO

UEDA SHOGO

(30)Priority

Priority number: 361 3447

Priority date: 19.02.1986

Priority country: JP

(54) PRODUCTION OF EYE DROP CONTAINING KETOTIFEN FUMARATE

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain the titled eye drop, by using ketotifen fumarate and a specific isotonic agent.

CONSTITUTION: An eye drop obtained by dissolving ketotifen fumarate as an active ingredient and a polyhydic alcohol, e.g. alcohol having ≥2 OH groups such as glycerol, propylene glycol, etc., monosaccharide such as D-erythrose, etc., disaccharide such as lactose, etc., trisaccharide such as raffinose, etc., tetrasaccharide such as stachyose, etc., sugaralcohol such as D-mannitol, etc., and, as necessary, together with a preservative, e.g. benzalkonium chloride, etc., in water. The resultant solution is adjusted to a suitable pH by adding a base, etc. NaOH, etc., aseptically filtered and dispensed into germ-free containers to afford the aimed eye drop.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

19日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

⑩ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭62-277323

⑤Int Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

匈公開 昭和62年(1987)12月2日

A 61 K 31/445 9/08

ABL

7252-4C V - 6742-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

69発明の名称

フマル酸ケトチフェン含有点眼液の製法

②特 願 昭61-187991

塑出 願 昭61(1986)8月11日

優先権主張

⑩昭61(1986)2月19日勁日本(JP)勁特願 昭61-34476

の発明者: :

倉沢 都

都 喜 雄 東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内

⑫発 明 者 上 田 省 吾

東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内

東京都中央区日本橋本町3丁目1番地の6

①出願人 三共株式会社 ②代理人 ###+ 塚出 広光

四代 理 人 弁理士 樫出 庄治

明細響

1. 発明の名称

フマル酸ケトチフェン含有点眼液の製法

2 特許請求の範囲

等級化剤として多価アルコール類を使用する ことを特徴とするフマル酸ケトチフエン含有点 眼液の製法。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の目的〕

本発明は点眼液の製法に関する。

一般に、点眼液として具備すべき敵も重要な点は、点眼液が炭液と同程度に等強であることである。そして、点眼液を等張化するために、通常は塩化ナトリウム等の電解質が使用されている。

ところで、フマル酸ケトチフェンは経口喘息 治療剤であるが、点限剤としても有用なことが 報告されている(三国ら、病院楽学、10 巻、 3 号、171 ~ 176 頁、1984 年)。

しかしながら、フマル酸ケトチフェンはそれ

単独では点眼液として不適であり、等張化剤を必要とする。しかるに等張化剤として通常使用されている電解質を使用すると経時安定性が著しく損なわれることが判明した。

そこで、本発明者らはこの欠点を改良すべく、 鋭意研究した結果、フマル酸ケトチフェン含有 の安定な点眼液の製法を見出して本発明を完成 した。

〔発明の構成〕

本発明は、等張化剤として多価アルコール類を使用することからなる、フマル酸ケトチフェン含有点眼液の製法に関する。

本発明に使用される多価アルコール類としては、例えばグリセリン、プロピレングリコール、トリメチレングリコール、ペンタエリトリトール、ボリエチレングリコールなどの二以上の水酸基を有するアルコール類の他に更に、ローエリトロース、ローリボース、ローランノース、ローフルクトース、ローラムノースのような単磁類、スク

ロース、マルトース、ラクトース等の二機類、 ラフイノース等の三糖類、スタキオース等の四 糖類のような少糖類からなる糖類、エリトリト ール、キシリトール、Dーマンニトールのよう な糖アルコール梨をあげることができる。

多価アルコール類の忝加量は、等張化に必要な量であり、使用される多価アルコールの種類により異なる。

本発明においては、常法に従い塩化ペンザル コニウムのような防腐剤を適宜使用することが できる。

本発明の点眼液は常法により製造される。例えばフマル酸ケトチフエン、多価アルコール類および必要に応じて防腐剤を水に俗解する。得られた容液に例えば水酸化ナトリウムのような塩差を加えて好通な pH に調整した後、 無菌戸過し、無菌容器に小分することによつて得られる。

〔発明の効果〕

次に実施例をあげて本発明を更に詳細に説明

実施例 1 において、 D ーマンニトール 50 gの 代りにポリエチレングリコール 200 の 50 g を用 いて、以下同様に実施した。

與施例 6.

実施例 1 において、 D ーマンニトール 50 g の代りにポリエチレングリコール 400 の 100 g を用いて、以下同僚に実施した。

比較例1.

実施例 1 において、マンニトール 50 g の代 りに塩化ナトリウム 10 g を用いて、 以下同様 に実施した。

比較例2~6.

種々の電解質を用いて、比較例 1 と同様に実施した。

比較例番号	崔 解 質	添加盤(9/1000 ml)
2	塩化カリウム	10
3	硫酸ナトリウム	2 0
4	伽波アンモニウム	2 0
5	酢酸ナトリウム	2 0
6	塩化アンモニウム	2 0

する。

実施例 1.

フマル酸ケトチフエン 1.0 g、 塩化ベンザルコニウム 0.1 g およびマンニトール 50 g を注用 蒸留水約 800 m に容解した。次いで水酸化ナトリウムを適量加えて pH を 5.0 に調整した後、全量が 1000 m となるように注用蒸留水を加えた。 実施例 2

奥施例 1 において、マンニトール 50 g の代 りにブトウ糖 60 g を用いて、以下同様に 吳施 した。

奥施例 3.

実施例 1 において、 D ーマンニトール 50 g の代りにグリセリン 25 g を用いて、以下同様に実施した。

実施例 4.

実施例 1 において、 D ーマンニトール 50 g の代りにブロビレングリコール 21 g を用いて、以下同様に実施した。

実施例 5.

試験例

実施例 1 乃至 6 、比較例 1 乃至 6 で得られた点眼液を 2 メアンブルに充填した後、 100 でで 8 時間後および 16 時間後の経時変化を 側定した。

結果を表りに示す。

数1から明らかの如く、多価アルコール類を 添加した場合は、電解質を添加した場合に比べ てフマル酸ケトチフェンは安定であつた。

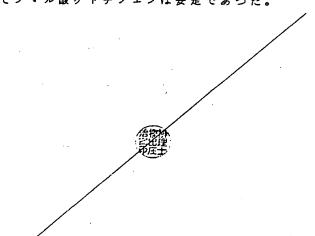


表 1

	フマル酸ケトチフエンの含意 kst		
	0 時間	8時間	16時間
奥施例 1	100	8.8	8 6
2	•	9 3	8 9
3	•	9 0	8 7
4	•	8 5	8 0
5	•	8 6	7 8
6		8.4	8 0
比較例1		50	3 9
2	•	5 9	4 6
3	•	83	7 6
4	,	77	7 2
5	•	6.4	5 7
6	•	43	2 9

特許出顧人 三 共 株 式 会 社 代 埋 人 弁理士 樫 出 庄 治